

審議会等の会議結果報告書

		課所名	こども課
会議名	平成29年度第1回諏訪市保育所専門委員会		
開催日時	平成29年12月14日(木)午後1時30分～		
開催場所	諏訪市役所302会議室		
出席者	保育所専門委員 伊藤武委員長、池上さゆり委員、中嶋博美委員、古谷良太委員、島津美穂子委員、石田望委員、宮坂さつき委員 事務局 関隆雄健康福祉部長、守屋和則こども課長、小泉知道保育係長、青木健太郎保育係主査		
欠席者	山崎三千代委員、矢野要子委員、伊藤めぐみ委員		
資料	平成29年度第1回保育所専門委員会次第、諏訪市保育所専門委員名簿、資料1諏訪市における公立保育所の今後のあり方検討資料、本市における公立保育所の今後のあり方について(諮問)の写し、平成30年度入園希望数及び受入可能数児童数等、保育所専門委員会の役割、諏訪市におけるこれからの公立保育所のあり方について(メモ)、資料2保育所再編等に係る報告書(平成23年度諏訪市保育所専門委員会報告書その3)		
協議議題(内容)及び会議結果(要旨)			
次第 1開会 2選任書の交付 3市長あいさつ 4諮問 5議事 (1)平成30年度保育園入所申込状況 小泉保育係長から説明 (2)保育所専門委員会の役割について 小泉保育係長から説明 (3)「今後の保育園のあり方」について 守屋課長から説明 6その他 7閉会 <議事録> 【市長あいさつ】 本日は 第1回 諏訪市保育所専門委員会 にご出席賜り誠にありがとうございます。委員の皆様には、日ごろから当市の保育行政、子ども・子育て支援全般につきまして、専門的な見地、お立場から 建設的なご意見やご指導を賜り、心から感謝申し上げます。また、子ども・子育て支援法に基づき5年を1期として策定されました「諏訪市子ども・子育て支援事業計画」では、毎年の進行管理をお願いしているところです。重ねて御礼申し上げます。 さて、専門委員会へは、平成22年に保育所再編等に関わる調査研究を依頼させていただいた経過があります。24年には その依頼に対する見解を報告書にまとめて提出していただいたところですが、その後も、子どもと子育て家庭を取りまく環境は 大きく変化をしてきているところです。特に人口が減少に転じてから何年			

か経過をしていますが、日本全体が超少子高齢社会に突入しています。人口の構成を見ましても、支える人よりも支えられる人の方が多く、それもさらに拡大している現状にあります。そうしたなか、福祉関係では、子ども・子育てのための施策と高齢者の医療、介護の施策をバランスよく推進していかなくてはなりません、社会保障関係経費などが増加しており、行財政運営の大きな課題となっているところです。

20 世紀は 人口は増え、まちも拡大拡散していく といった考え方で、各種の事業が進められてきたわけですが、これからは 人口が減る、子どもが減る 社会が訪れます。現在、本市の都市計画マスタープランを見直し、同時に立地適正化計画を策定していますが、これは 人口が減っても効率的で暮らしやすいまちとなるように、市民の皆さんが交流できる施設を充実させ、居住する地域からの公共交通を整備したコンパクトなまちづくりを進めていくといった計画です。また、現在ある公共施設をこのままずっと維持し続けようとする 10 年後、20 年後には 年間で 約 30 億円の経費が不足してしまう状況にあります。将来的な施設のあり方を見据え、いかに効果的、効率的に施設を運営していくかという観点で策定した公共施設等総合管理計画では、10 年間で施設の床面積を 10%削減する目標を持って取り組んでいるところです。

全国的には縮小の時代に入っていますが、持続可能なまちを創っていくために、私は 職員に対して「過去からの延長線上のみではなく、未来を見据えたまちづくりへと発想を転換し、未来へつながる施策を進めていただきたい。」と伝えています。繰り返しになりますが、これからの時代地域創生において「子育て支援」はたいへん重要な施策であると考えています。ぜひ、委員の皆様には、さまざまな方面からご検討いただき、これからの時代の「公立保育所が果たすべき機能・役割」を整理し、そのための運営の在り方についてご意見を賜りたいと存じます。

それでは、諮問「本市における公立保育所の今後のあり方について」を読み上げます。

【議事】

(1) 平成30年度保育園入所申込状況

直近の入園希望者は、公立・私立保育園全体で 1,328 名となっており、その内訳は 3 歳未満児が 305 名、3 歳以上児が 1,023 名となっています。一部の保育所では入所調整が必要となりますが、認可保育所全体での受け入れ可能人数 1,874 名は下回っている状況です。今後も、転入転出などの理由による増減が見込まれますが、新年度見込みについて報告させていただきます。

(2) 保育所専門委員会の役割について

(省略)

(3) 「今後の保育園のあり方」について

先ほど市長から諮問に至った背景とその内容について説明がありましたが、諮問の趣旨について整理させていただきますながら、議論の方向を確認してまいりたいと思います。

現在、そして未来を展望したとき、地域における子育て支援拠点の機能充実がますます重要であることについては共通の理解であると考えています。そこで、これからの人口減少社会・人口構成の変化がもたらす地域社会への影響及び子ども・子育てを取りまく環境の変化を踏まえた保育の事業量を見込みながら、公立保育所に期待され、果たすべき機能・役割を整理していただくとともに、その機能・役割を持続的かつ安定的に果たしていくための効果的な運営についてご意見を求める趣旨の諮問であります。

国の動向などを見ても、幼児教育の無償化などを含む新しい政策パッケージが示されるなど 保育・子育てをめぐるはまだまだ 動いていくのかなといった思いはありますが、平成 27(2015)年に策定された「諏訪市子ども・子育て支援事業計画」の中間年に当たる本年、32(2020)年の事業計画の更新も見据えながら、長期的な視点で、子どもたちの最善の利益が配慮された養護、教育の環境を整えていく観点でご意見を賜りたいと思います。

答申までの期間は来年の6月までとなりますが、保育所再編のほか保育所の運営につきましても、平成24

年報告をまとめていただく際に議論をしていただいている経過がありますので、今日的な課題、これからの展望と課題を踏まえ、あらためてご意見をいただき、答申としてまとめていただくこととなります。

本日は1回目の委員会となりますので、諏訪市の人口動向や保育所利用率の推移、保育施設の状況等について事務局で用意させていただいた資料により説明をさせていただきます。

【資料説明】 —— 事務局より説明 ——

1. 児童数の状況について

・本市人口、出生数、女性人口、就学前児童の推移など

2. 保育所等の状況について

・本市保育所入所児童の推移、保育所等配置状況、施設基本情報など

《委員長》

事務局の方から現状等について説明がありました。説明を受けて気がついたこと、聞きたいことなどがありましたら発言していただきたいと思います。

《委員》

現状を分析把握するにあたり、人口動向や保育需要の推移について説明していただきましたが、これ以外の資料も求めがあれば提出していただけるのでしょうか。

(私は)前回報告以降に委嘱を受けているため、24年の保育所再編等に関わる報告書全文は初めて見るのですが、この報告書を参考に考えていくことで良いのでしょうか。

《事務局》

本日は事務局で資料を用意しましたが、委員から要望があればできる限りそれに沿った資料を用意させていただきますと考えています。

24年の報告書は決して反故したものではありません。当時も子どもが減っていく、時代が変わっていく中で、回数を重ねてご協議いただき提出していただいた報告書ですから、内容は尊重すべきものだと思っております。ただ、その後に支援新制度がスタートするなど、保育をめぐる制度・子どもを取り巻く状況などが大きく変わっていますので、24年の報告書を踏まえつつも、新しい展開、考え方、必要な施策があれば議論の対象に加えてもらうのがよいと考えています。

《委員》

保育所の運営にどれくらいの経費がかかっているのかといった資料が見当たりませんが、そのような数字を示していただくことはできるのでしょうか。

諏訪市の場合、私立保育園や事業所内保育所が少ない分、公立の保育所に比重がかかりすぎているように感じています。私立保育園への委託など他の市町村ではどのようにされてきたのか、その経緯や委託料等の資料も参考にさせていただきたいと思っています。

《事務局》

次回までに保育所の運営経費がわかる資料を用意したいと思います。なお、近隣市では来春には私立保育園開設の動きもありますし、本市にはまだ設置されていない認定こども園などもありますので、委員会からの要望があれば時期などを調整しながら、資料なり、見学なりも予定したいと思っています。

《委員》

松本市では待機児童がいるという話を聞きましたが、諏訪市の場合はいかがでしょうか。年度の途中などに入園の希望があった場合、その時に受け入れることができれば受け入れるでしょうし、翌年度の4月1日から受け入れて解消できれば良いのですが、保育園の予算や人員配置の見通しを教えていただきたいと思っています。

子どもが生まれた時点で保護者は、1歳からとか、3歳からとか、保育園の利用についてある程度の見通しを持っているのではないかと思います。出産後、早くに情報を集約する仕組みがあった方が、計画的な

対応ができると思われませんが その点 いかがでしょうか。

事務局の説明では、10年前と比べて入園児童数はだいたい同数であるが、3歳未満児の数は右肩上がりとのことでした。企業側の育児休業の体制などもだいぶ整備されてきているかと思われませんが、これも予測は難しいのですが まだまだ増えそうな感じがしています。このあたりも踏まえて現状はどうかお聞かせいただけるでしょうか。

《事務局》

毎年10月～11月に翌年度の入所の受付を行っています。年度途中の入所は3歳未満児がほとんどですが、年間で50～60人程度の希望があります。年初の入所希望を満たすだけでは、年度途中の受け入れに対応できないため、年度中の増員を見込んで、保育士を確保したり、未満児室を改修したりするなどして対応してきた経過があります。できるだけ早くにそれぞれの事情や情報を収集して対応していくことは大切ですし、ほしいデータではありますが、現実的には、会社の都合があったり、本人の都合があったりで、正確な数値を持つことは難しいのではないかと考えています。

本市の3歳未満児人口に対する保育所利用率は全国より少ない状況にあります。都市部とは 育児の環境も異なるところはあると思いますが、これからは、生産年齢人口が減り、働き方もますます変わってくるでしょう。人口総数は減少しても女性の就業率の動向によっては、3歳未満児の保育需要もまだ伸びてくるのではないかと考えています。

将来にわたる保育ニーズの展望についても、何か提示できないか検討してみたいと思いますが、現状としては、入所受付の状況とこれまでの途中入所の状況から年間の保育ニーズを見込み、対応できる体制をできるだけ4月の段階から整えているといったところです。

《委員》

保育園を訪問すると、保育士の“質”のお話を良く聞きます。人材育成のあり方については、この委員会で協議するのではなく、市の方で検討されていくのでしょうか。企業などでも若い人たちのことや人材育成のことが話題になっていますので、少し気になり発言させていただきました。

《事務局》

保育の質とそれを支える保育士育成の話をしていただきました。保育をめぐっては、量の拡充に合わせて、質の向上も強いわれています。「質」については今般改訂施行する保育所保育指針にも記載がされており、当然そこを高めていく必要があると考えています。

職員の育成については、現場において園長を中心に実際に指導がされているところですが、総務課や保育協会などが計画する研修会などもあり、それらへの参加、受講を通じた学びの機会も大切にしているところです。研修体系のあり方なども含めて、「質の向上」につながるご意見も、是非この委員会で聞かせていただきたいと思います。

《委員》

保育の質を維持していく、高めていくためには、どうしてもお金と時間が必要になると思います。自分たちで頑張りなさい というのは乱暴ではないかと思しますので、建物ばかりに力を入れるのではなくて、ソフトの面でももう少し充実させていかなければならないと思います。

人口動向において、30～39歳の年齢層が減少しているということは、他市や他県に流出しているということです。これは、子どもを育てている世代がいなくなっているということですから、その理由を考えなければいけないわけですが、子育てしづらい、働きづらい がために流出していることはないでしょうか。環境が整っていない、公園が少ない、サービスが少ない。すぐには解決しづらいものではありませんが、子育ての計画や人口を呼び込むための計画は、そういうところから始まらなければ難しいのではないかと感じています。この委員会が、公立保育園のことだけでなく、広範に目を向けて 子どもたちの育ち・学び・養育の環境を考える会議になってくれれば良いと思っています。

《事務局》

これからの保育所が果たす役割については、今後、議論をしていただくわけですが、保育所には 地域の子育て支援拠点としての役割を担っていく必要があるのではないかと考えていますので、保育所といった枠にとどまらず、「すべての子どもたちのために」といった視点で考えていただけると議論が広がっていくのではないのでしょうか。保育所では これまで以上に「教育」といった視点での期待も高まっています。委員には幼稚園の長といった立場で いろいろな知識や実践経験をお持ちでしょうから、委員会の中でもそのような視点からご意見をいただけたらたいへんありがたいと思います。

30代の女性の転出については、市全体が危機感を持っております。どのように人を呼び込むのか、人を移動させないためにはどのような施策が有効か、市全体で考えなくてはいけない大きな課題だと考えています。

《委員長》

私立幼稚園と公立保育園の状況には差があると思いますが、この委員会でどんどん意見を出していただき、良い方向へ繋げていけるようにお願いします。

《委員》

私は他県他市からの異動でこちらに来ていますので、どうしても比べてしまうところがあるのですが、幼保小の委員会がありません。小学校と保育園・幼稚園に入った子どもたちとの連絡というのは、先生たちの方で個別にはやっていまするのですが、全体として、段階的に子どもたちの教育を見ていくことが重要です。活発にやられている他の市町村などを研究していただき、教育委員会と絡めながら先生たちと連携をとってやっていかなければいけないと思います。どういった問題が今あるのか、保育園として 小学校からどのようなことが求められているのか、そういったことも考えていく必要があるのではないのでしょうか。

《委員長》

模範になるような地域があるようでしたら、紹介をしていただきたいと思います。

《委員》

〇〇市などはとても活発なのですが、保育園・幼稚園に求めることが少し多すぎるような気がします。特にここ2年くらいは増えてきていると感じています。

《事務局》

幼稚園を含めた学校との連携については、教育委員会が関係してきますので、ここでどうするかといった結論を出すわけにはいきませんが、そのような情報なども大いに参考となります。

《委員》

保護者の立場から一言よろしいでしょうか。少子化が今後の課題だということは重々承知していますので、保育園を統廃合するにしても、民間活力を活用するにしても、第一は「子どものため」ということを大事にしたいと思っています。よろしくお願いします。

《事務局》

子どもを主体に考えていく ということだと思います。一番大切にしないといけないご意見だと思います。もちろん、現在 子育てをしている方も大変だと思いますが、これから先、子どもや子育て家庭にできるだけ負担を残さないような方法を考えていく必要があります。保護者の立場からのご意見をありがとうございます。

《委員》

人口も減っていきますし、子どもたちを取り巻く環境、子ども自身も これからどうなっていくのかなと考えさせられます。現場では、質を上げていくことは重要なことであると、危機感を持ってやっているわけですが、保育園長の立場で今日の委員会に出された「質」の話は、あらためて考えさせられるものでした。講師の先生をお呼びして講演会を開いたり、公開保育を通じて勉強をしたり、先輩を見て学んだり、自主的に園内研修などもやりながら、お互いに高めあっているところです。

《委員》

なぜ子育てしづらいといわれるのか いろいろと話は聞きますが、そのあたりがはっきりわからないといつまでたっても諏訪市に住んでいただけないのではないのでしょうか。私は東京の出身なのですが、子育てしているときから住みづらいつとはあまり感じませんでした。そのへんがなんとか明確にできないかなと思っています。

あまり言いたくはないのですが、諏訪市はPRが上手くないと思っています。隣の市では市長さんが至る所で「子育て日本一だ。」と言っており、それが浸透しているように感じます。PRが不足していることと、パッケージとして上手く伝えられていないのではないかと感じています。私もいろいろなところで「こういうのあるよ。」と言ってもいますが、そのあたりは、市が研究していく余地があるのではないのでしょうか。それから今後の進め方ですが、答申が6月までとタイトな日程になっていますが、今後の委員会の開催予定など、わかる範囲で教えてください。

《事務局》

情報を充実させることはとても大切なことだと思いますが、さまざまな場面で発信した情報が上手に伝わっていないと感じているところでして、研究していく必要があると考えています。視察等が必要な場合には、先方との調整も出てきますが、議論の場を月1回くらい開催して進めていく予定です。今回を含めて7回 プラス必要な視察 が出来ればよいと思います。

《委員長》

前回の委員会は 13 回くらい開催しています。今回も答申を出すので最後の何回かは 日程がつまってくるのではないのでしょうか。進行にあたっては事務局と早めに段取りながら進めていきたいと思っています。

本日は事務局に資料を用意してもらい、説明を受けてから質問を出してもらいましたが、持ち帰ってゆっくりと見ていただき、分からないこと聞きたいところがあれば、事務局へ問い合わせてもらったり、次回の委員会に持ち寄っていただきたいと思っています。次回以降も建設的な意見が出されますよう、よろしくお願いします。